シンポジウム記録

アオリイカの生物学と漁業技術の進歩

瀬川 進¹ (海洋大),
池田 譲² (琉球大理),
海野徹也³ (広大院生物圏科),
上田幸男^{4*} (徳島農水総技セ)

Advances in oval squid *Sepioteuthis lessoniana*
biology and fisheries technology

SUSUMU SEGAWA,¹ YUZURU IKEDA,²

TETSUYA UMINO³ AND YUKIO UETA^{4*}

¹Tokyo University of Marine Science and Technology, Minato, Tokyo 108-8477, ²Department of Chemistry, Biology and Marine Science, University of the Ryukyus, Okinawa 903-0213, ³Graduate School of Biosphere Science, Hiroshima University, Higashi-Hiroshima, Hiroshima 739-8528, ⁴Tokushima Agriculture, Forestry and Fisheries Technology Support Center, Naruto, Tokushima 771-0361, Japan

はじめに

アオリイカは沿岸に棲む身近な水産資源で、古来より人々に親しまれてきた。新鮮なアオリイカは高価に取引されることから、漁業関係者の関心は高い。実際に、調理人や消費者からは「イカの王様」と称されるほど美味である。遊漁においては、エギングと称される餌木釣りが人気である。さらに、複雑で優美な行動は、広く人々を惹き付けている。一方、近年は神経行動学などのモデル動物としても注目され、基礎科学研究に貢献している。

この四半世紀にアオリイカの生物学、漁業技術に関する知見は著しく増した。これらを分野横断的にレビューし、生物学と水産技術との交流を図ることにより、アオリイカについて新たな水産的展望を拓くことを目的とした。

本シンポジウムには、研究者のほかに、釣り具メーカー、魚礁メーカー、水族館関係者、および釣り人、漁業者など総勢118名が参加し、アオリイカの生物学と漁業技術について活発に議論を交わした。総合討論においても一般参加者がアオリイカの生理、生態と漁業技術およびアオリイカの増殖について積極的に質疑応答に参加し、予定時間を超えても質問と議論が尽きることはな

かった。

本シンポジウムを通じて、アオリイカ研究の進歩と課題について参加者に敷衍し、今後のアオリイカ研究の発展に向け、分野と業種を超えて協力を依頼した。よって、本シンポジウムはその目的を十分に達成できたと考ええる。

<プログラム>

開会の挨拶：瀬川 進 (海洋大)

I. アオリイカの生物学 座長：池田 譲 (琉球大理),
上田幸男 (徳島農水総技セ)

1. 分類と生物地理
今井秀行 (琉球大理)
2. 胚発生と生活史
瀬川 進 (海洋大)
3. 繁殖行動
和田年史 (鳥取県博)
4. 視覚特性
宮崎多恵子 (三重大院生資)
5. 神経系と進化発生
滋野修一 (海洋開発機構)
6. 行動と社会性
池田 譲, 杉本親要 (琉球大理)

II. 漁業技術と資源の有効利用

座長：瀬川 進 (海洋大), 宮崎多恵子 (三重大院生資)

1. 漁業と資源生態
上田幸男 (徳島農水総技セ)
2. 釣りと遊漁
不破 茂 (鹿大水), 海野徹也 (広大院生物圏科)
3. 鮮度管理と流通, 調理
岡本 昭 (長崎県庁), 和田隆史 (徳島県庁)
4. 学校教材および展示動物としての活用
岸下純弘 (鹿児島水産高), 和田年史 (鳥取県博)

III. 総合討論

座長：海野徹也 (広大院生物圏科), 上田幸男 (徳島農水総技セ)

基礎と応用の融合を目指して

上田幸男 (徳島農水総技セ)

総合討論

閉会の挨拶 池田 譲 (琉球大理)